

ケイがシャーレにやってきた

先生。ちょっとお時間
よろしいですか

王女は貴方を信頼しているようですが
色々悪い噂の絶えない貴方のことを
私はまだ信用していません

誤解だ…？口ではそう言いながら王女に
劣情を抱き、変態的な行為を考えている
可能性だってあります

なので私自らあなたが王女にとって
危険ではないと証明するために監査を
行うことにしました

…？何を呆けた顔をしているんですか
ほら、つべこべ言わず仮眠室に来てください



うっ…なんですかこれ
この据えた匂い…はあく

こんなえっちな雄の匂いに
加えてカウパーまで…

はあ…くっさあ

こんな凶悪なものを王女に
向ける気だったなんて…
はあく…許せません…

ほら、処理するので早く横に
なってください

はー…
はー…

ミルク…
キリ…

は…
ス…
ス…

あ…
あ…





ちよ、まへ…待って
せんせい

き、急にはげひ

おっっっっっ

も…ゆるひ…っ
ああ…イ…ッ



んっ…無駄に大きいんですから…

ほらっ…！私が動くのですから
早く射精しちゃってください！！



ほっ…
はあ…はあ…やっど…
射精したのですか…

え…まだシたりない…？
…とあきれた性欲ですね

不本意ですがこれも王女を
守るため…仕方ないですが
まだシてあげますよ…

王女や他の子にこんな事しては
絶対、絶対、絶対、ぜーったい
許しませんよ